

その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

北海道 150 年事業 基本方針（原案）

H28 年 8 月 8 日現在検討案

平成 28 年 8 月

北海道 150 年道民検討会議

「北海道 150 年」について

2018 年（平成 30 年）に、本道が「北海道」と命名されてから 150 年目の節目を迎えます。

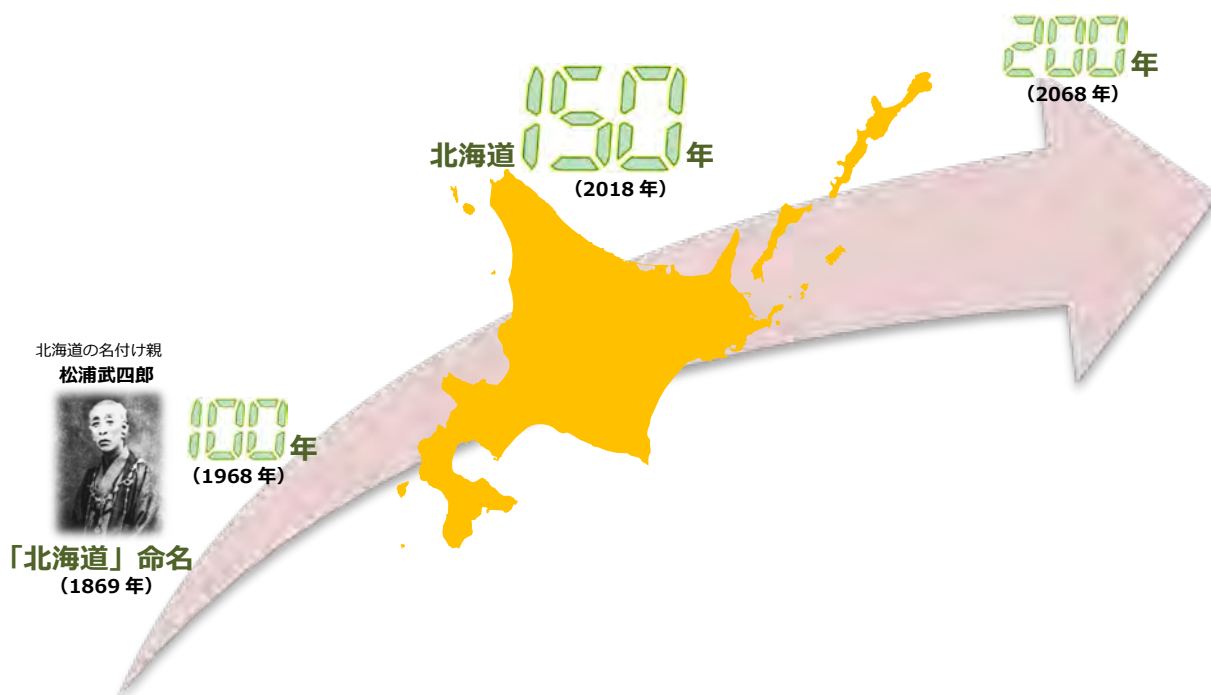
本道はかつて「蝦夷地」と呼ばれていましたが、1869 年（明治 2 年）の 7 月 17 日に、松浦武四郎が「^{ホッカイドウ}北加伊道」を含む 6 つの名前を候補とする意見書を明治政府に提案し、その後 8 月 15 日に、太政官布告によって「北海道」と命名されました。

キーパーソン「松浦武四郎」

- ・ 開拓判官として、蝦夷地の名称について明治政府に対して「^{ホッカイドウ}北加伊道」という名前を提案した、いわば北海道の名付け親です。
- ・ 武四郎が残した「天塩日誌」では、アイヌの古老から「"カイ"という言葉には、「この地で生まれたもの」という意味がある」と教えられたとの記述があり、「^{ホッカイドウ}北加伊道」の「^{カイ}加伊」には、この意味が込められているといわれています。
- ・ 蝦夷地調査の際には、アイヌの人々に道案内をお願いし、寝食を共にするなどアイヌの文化に深く触れるとともに、その生活や文化を紹介するために、多くの記録を残しました。



写真提供：松浦武四郎記念館



この基本方針は、2018 年（平成 30 年）に行う北海道 150 年事業の検討・実施に当たっての考え方や枠組みをまとめています。北海道民の皆様などに対して、本事業の趣旨等を理解していただき、参加していただけるよう留意し作成しました。

個別事業の内容については、これまでに事務局に寄せられた意見、提言等を参考とするなどして、今後、設立が予定されている実行委員会や様々な実施主体が検討・準備を進めていくこととなります。

1 基本的な考え方

基本理念

アイヌ文化や縄文文化をはじめとする本道独自の歴史や文化、国内外に誇る豊かな自然環境は、かけがえのない道民の精神的豊かさの源です。

本道が「北海道」と命名されてから150年目となる2018年(平成30年)を節目と捉え、積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民・企業・団体など様々な主体が一体となってマイルストーン(=通過点の節目)として祝うとともに、未来を展望しながら、互いを認め合う共生の社会を目指して、次の50年に向けた北海道づくりに継承します。

また、道民一人ひとりが、新しい北海道を自分達の手で創っていく気概を持ち、北海道の新しい価値、誇るべき価値を共有し、国内外に発信することにより、文化や経済など様々な交流を広げます。

テーマ

✓ 北海道151年目の新たな一歩を踏み出す

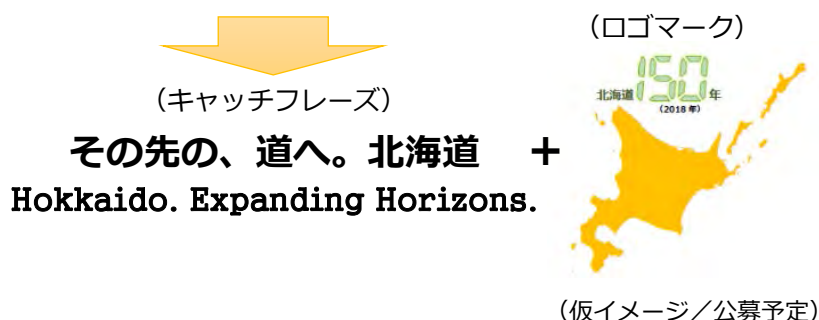
北海道のこれまでの歩みを見つめ直し、未来を展望しながら、道民一人ひとりがそれぞれの立場で新たな一歩を踏み出します。

✓ 先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ

アイヌ文化や縄文文化などの歴史や芸術・文化に加え、豊かな自然環境や産業技術など、先人から受け継いだ貴重な財産を次の世代に引き継ぎます。

✓ “Hokkaido”の多様な魅力を世界に広げる

道民はもちろん、国内外に向けてHokkaidoの多様な魅力を発信し、道民と北海道を愛する世界中の人たちの様々な交流を広げます。



基本姿勢

未来志向 北海道の未来の姿を見据えます。

価値創造 北海道の可能性を見つめ直し、新しい価値をつくります。

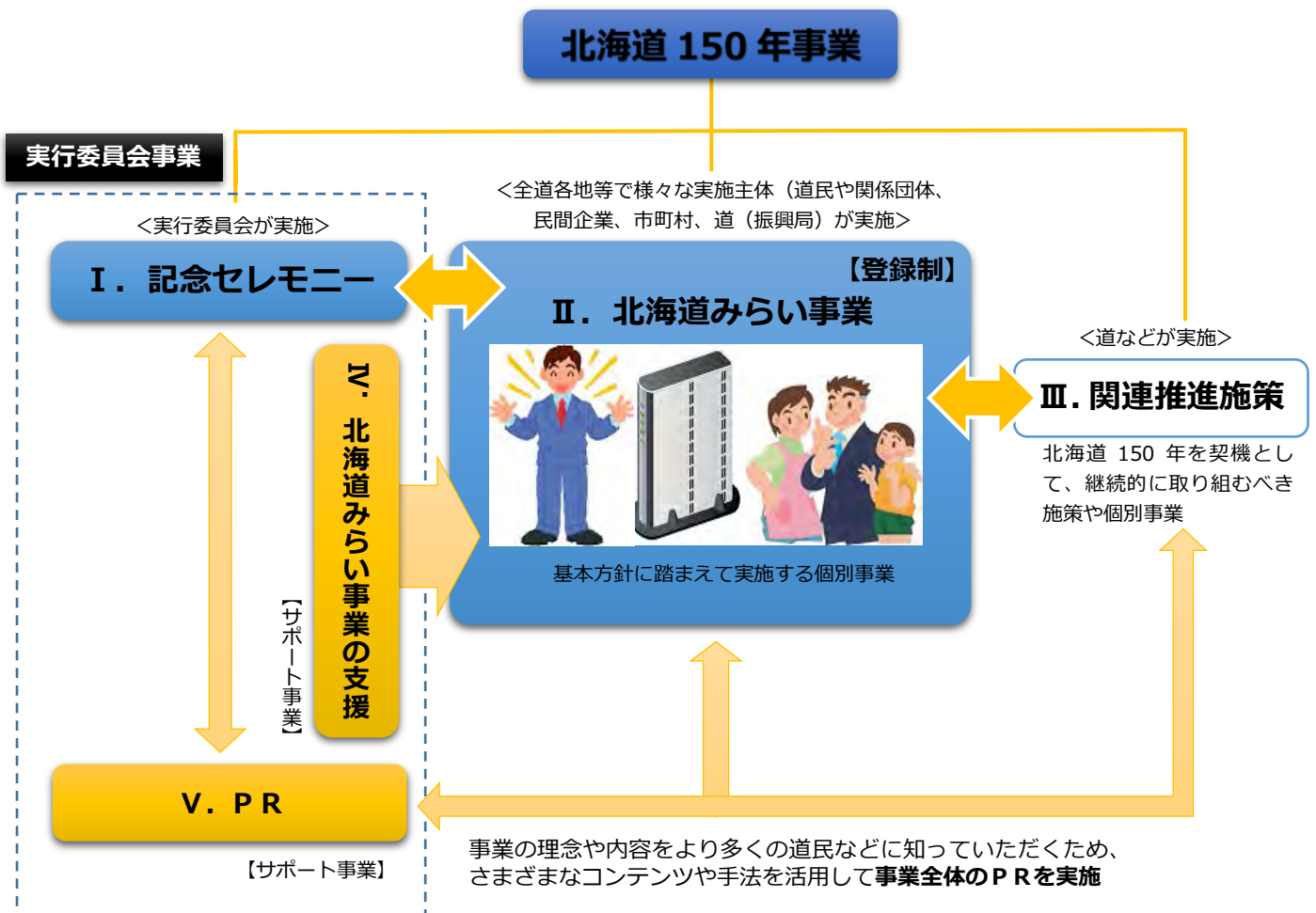
道民一体 多くの道民などの参加により、北海道全体を盛り上げます。

2 事業の概要

(1) 事業の構成

北海道 150 年事業を構成する個別事業は、実施主体別に、「記念セレモニー」と「北海道みらい事業」に分類しています。

また、これらをサポートするため、「北海道みらい事業の支援」や「PR」を行うとともに、北海道 150 年を契機として継続的に取り組むべき施策などを「関連推進施策」として位置づけます。



(2) 実施時期

原則として平成 30 年 1 月～12 月とします。

(事業終期が平成 31 年以降となる個別事業を含みます)

(3) 展開エリア

北海道を中心としながら道外での実施も検討します。また、その実施効果は全道及び国内外に波及することを期待しています。

(4) 個別事業の概要

個別事業は、「北海道 150 年事業基本方針」の趣旨を踏まえ、実施します。

I. 記念セレモニー

北海道 150 年を象徴する事業として、記念セレモニー及び関連する企画等を実施します。

<実施主体>

北海道 150 年事業実行委員会（仮称）

<実施時期>

平成 30 年 4 月～夏頃
（記念セレモニーは夏頃の実施を想定）

<事業費>

- ・ 広く道民などから募った寄附やクラウドファンディングの活用
- ・ 実行委員会構成員による負担金 等

<関連企画例（今後検討）>

●北海道の歴史・文化・活力の発信

- ・ アイヌの音楽や舞踊の披露
- ・ お祭り（北海道版東北六魂祭 等）
- ・ うたの制作、披露
- ・ 道外（海外含む）との連携
- ・ バーチャル道民[※]との交流 等

※「道民倍増計画」（インターネットにより、北海道とつながり、応援してくれるフォロワーに、地域のイベントや観光、ビジネスの情報を継続的に発信することで、交流人口や将来の実質的な人口増を目指すもの）によって獲得した、北海道とつながり、応援してくれるフォロワー

●フォーラム・シンポジウム

（テーマの例）

- ・ 北海道の未来を語る
- ・ 松浦武四郎の足跡とアイヌ文化を探る 等

●「北海道」の見つめ直しと継承

- ・ 北海道の偉人の選定、表彰（道民投票、記念冊子作成 等）
- ・ 北海道の新たな価値を伝えるキーパーソン 150 人の選定、表彰
- ・ 北海道の一番星事業（市町村の宝物や価値の発掘、マップ作成） 等

など

※アンケート調査等でご提案があった事業アイデア等についても検討します。

II. 北海道みらい事業

「北海道 150 年事業基本方針」の趣旨を踏まえて、様々な主体が実施する事業です。実行委員会が行うサポート事業（P7 のIV.「北海道みらい事業」の支援、P8 のV. PR）の対象となります。

<参画方法>

各実施主体は、個別事業の計画（案）を実行委員会に登録した上で、事業を実施します。

<登録>

登録の要件等については、実行委員会が定めます。（法令等に違反するものや公の秩序又は善良の風俗を害するものなどは対象外とします。）

登録後は、ロゴマークが使用できます。

<実施主体>

道民、関係団体、民間企業、市町村、国の出先機関、道（振興局）等
（複数の実施主体の連携も可能です）

<実施時期>

平成 30 年 1 月～12 月（事業登録の募集は平成 29 年 4 月～）

<個別事業例（今後検討）>

<道民検討会議の議論等を踏まえた取組>

●松浦武四郎関連事業

- ・北海道博物館における特別展
- ・松浦武四郎記念館（三重県松阪市）との交流事業 等

●「北海道」の見つめ直しと継承

- ・150 年データベース、アーカイブス（印刷物、冊子、映像等）の構築
- ・北海道や各地域の歴史に関わる子ども向け資料の作成
- ・北海道の発展を支えた政策史の作成
- ・開拓期の歴史（お雇い外国人や移住者の視点等）の情報発信
- ・豊かで優れた自然・生物多様性の保全と継承 等

●文化・芸術等の発信、文化触れ合い事業

- ・道立美術館における特別展
- ・知事公館アートフルガーデン[※]を活用したイベント 等

※道立近代美術館、道立三岸好太郎美術館、知事公館を含むゾーン

●アイヌ文化の発信

- ・アイヌ PRODUCTS[※]の発信
- ・アイヌ文様のTシャツを活用したウェルカム事業
- ・海外メディアの招聘事業 等

※アイヌの伝統工芸と現代的なデザインを融合した新たなブランド商品

●世界中の北海道ファンの獲得

- ・道民倍增計画[※]の推進

※インターネットにより、北海道とつながり、応援してくれるフォロワーに、地域のイベントや観光、ビジネスの情報を継続的に発信することで、交流人口や将来の実質的な人口増を目指すもの

●スポーツイベントとの連携事業

- ・プロスポーツチームとの連携
- ・大規模スポーツイベントとの連携 等

●一次産業関連事業

- ・食育を通じて一次産業（生産者）の大切さを学ぶ取組
- ・女性が活躍できる環境づくり
- ・地域資源を活かした6次産業化の取組 等

●北海道価値の再発見事業

- ・北海道遺産プロジェクトの活性化
- ・日本遺産の認定に向けた取組
- ・市町村の名前、由来に関する情報発信 等

●国際交流関連事業

- ・姉妹・友好提携地域等との重層的な交流 等

<その他の想定される取組>

- 食・観光の磨き上げ事業
- 北海道の産業を支える研究、技術展
- 北の縄文関連事業
- 北方領土関連事業

<冠事業（協賛事業）>

- 各種スポーツ・文化事業
- 各種イベント事業
- 植樹・育樹など木育事業

など

※アンケート調査等でご提案があった事業アイデア等についても検討します。

Ⅲ. 関連推進施策

北海道 150 年を契機として継続的に取り組むべき施策や個別事業に関して、道などが実施する取組です。

<実施主体>

道 等

<実施時期>

平成 30 年 1 月～12 月（終期は事業ごとに異なります）

<施策・個別事業例（今後検討）>

●「北海道」の見つめ直しと継承

- ・「新北海道史^{※1}」の後継史の編さん
- ・道庁赤れんが庁舎のリニューアル事業
- ・知事公館アートフルガーデン^{※2}の機能拡充 等

※1：北海道百年の記念事業として、昭和 45 年までの歴史を記録。昭和 56 年までに全 9 巻を刊行

※2：道立近代美術館、道立三岸好太郎美術館、知事公館を含むゾーン

●北海道百年記念施設[※]のあり方検討

- ・今後のあり方検討及び取組の実施
- ・民族共生象徴空間（白老町／平成 32 年度一般公開を目標）との連携 等

※北海道博物館、北海道百年記念塔、北海道開拓の村

●人材育成事業

- ・グローバルに活躍する人材の育成
- ・スポーツ分野で活躍する人材の育成 等

●東京オリンピック・パラリンピック等を視野に入れた“Hokkaido”の魅力 PR

- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック開会式などのプログラムにおけるアイヌ民族の文化発信 等
- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピックの波及効果の取り込み
- ・冬季オリンピック・パラリンピックの誘致推進

など

IV. 「北海道みらい事業」の支援【サポート事業】

「北海道みらい事業」登録事業の準備・実施について、実施主体の提案・相談等を受けて、実行委員会が支援を行います。

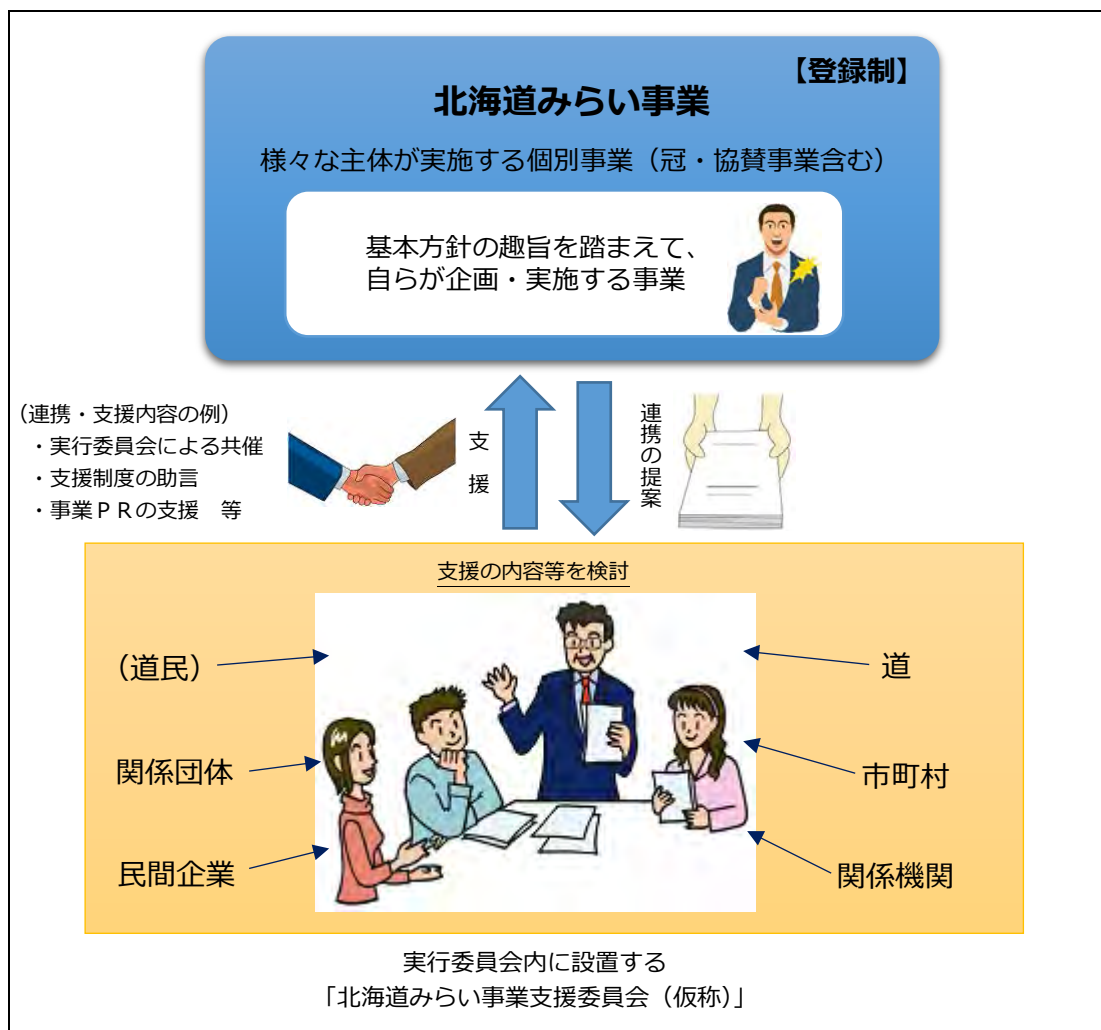
<実施主体>

北海道 150 年事業実行委員会（仮称）

<実施時期（支援対象時期）>

平成 29 年 4 月～

<支援の概要（今後検討）>



<支援の概要>

事業計画（案）や提案内容を踏まえて、実行委員会が支援を検討・実施します。

V. PR【サポート事業】

イメージコンテンツや様々な手法により、事業PRを効果的に行い、道民の皆様の心に残る事業となるよう努めます。

<実施主体>

北海道150年事業実行委員会（仮称）

<イメージコンテンツ>

●キャッチフレーズ

その先の、道へ。北海道

Hokkaido. Expanding Horizons.

北海道には様々な可能性が広がっていること、そして、北海道が未来や世界に積極的に進んでいこうとする動きを感じさせるとともに、北海道らしい風景をイメージさせ、道外や海外の方々に対し北海道に“ぜひ来てください”と呼びかけるフレーズでもある「北海道の新たなキャッチフレーズ」を使用します。

●ロゴマーク

事業に参加する方々の一体感を表すシンボルとして、基本理念や事業の考え方を表現するロゴマークを作成し、キャッチフレーズとあわせて、事業のPRに活用します。



（仮イメージ/公募予定）

<PRの手法>

イベントの活用

各種お祭りやスポーツイベントなど、大規模イベントでの啓発活動等を行います。

インターネットメディアの活用

ホームページによる資料等の情報提供、SNSによるコミュニケーションを通じて情報を発信します。

マスメディアとの連携

「北海道150年事業」をより多くの道民に知っていただけるよう、マスメディアと連携します。

民間の取組との連携

発信力のある民間企業の取組と連携して、その取組を通じて「北海道150年事業」を発信します。

<PR強化期間>

平成29年10月～平成30年3月をPR強化期間として、集中的にPR活動を行います。

3 推進体制（実行委員会）

官民の幅広い構成員による「北海道 150 年事業実行委員会（仮称）」を平成 28 年 10 月頃に設立し、基本方針を踏まえて事業計画を作成するなど、事業全体を推進します。

（1）活動内容

- ① 事業計画の作成
- ② 主催事業（記念セレモニー）の企画・実施
- ③ 北海道みらい事業の登録及び支援など事業全体の調整
- ④ 北海道 150 年事業全体の P R 等

（2）体制等


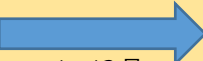
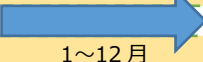
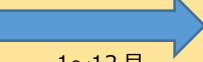


事業の趣旨に賛同する関係機関や団体及び企業の代表者等で構成することとします。

役員	会長 北海道知事 副会長 北海道経済連合会会長、北海道商工会議所連合会会頭 等 顧問 北海道 150 年道民検討会議委員長 等
組織	総会、幹事会及び部会を設置します。
事務局	道、北海道経済連合会及び北海道商工会議所連合会等で構成します。

（3）事業費等

実行委員会が実施する事業の経費は、道民などからの寄附、負担金及びその他の収入を充てることとします。

4 スケジュール

項目	H28 年	H29 年	H30 年	H31 年～
I. 記念セレモニー (北海道 150 年事業実行委員会)			 4 月～夏頃 セレモニーは夏頃	
II. 北海道みらい事業 (道民、関係団体、民間企業、市町村、道)		事業登録開始 連携提案受付開始 4 月～	 1～12 月	
III. 関連推進施策 (道など)			 1～12 月	(終期は事業により異なる)
IV. 北海道みらい事業の支援 (北海道 150 年事業実行委員会)			 1～12 月	
V. P R (北海道 150 年事業実行委員会)		 4 月～ (本格開始) 12 月  10～3 月 (強化期間)		



北海道 150 年道民検討会議事務局

北海道総合政策部政策局北海道 150 年事業準備室 (TEL : 011-204-5995)

北海道経済連合会企画総務グループ (TEL : 011-221-6166)

北海道商工会議所連合会総務部 (TEL : 011-241-6305)